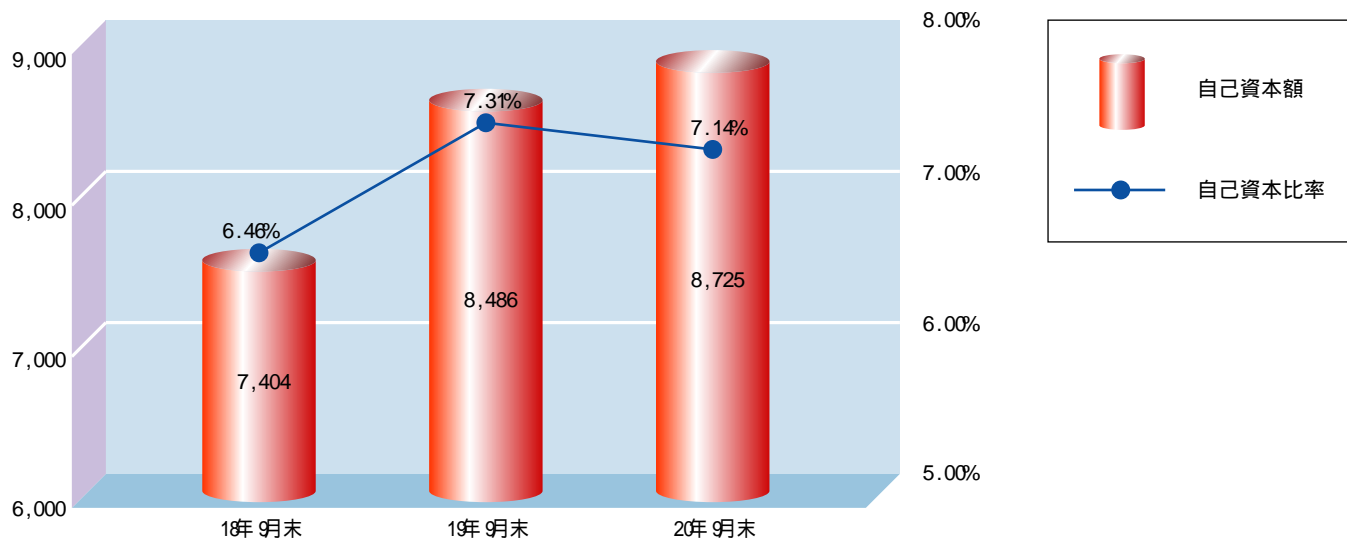


自己資本の状況

自己資本の推移

(単位：百万円)

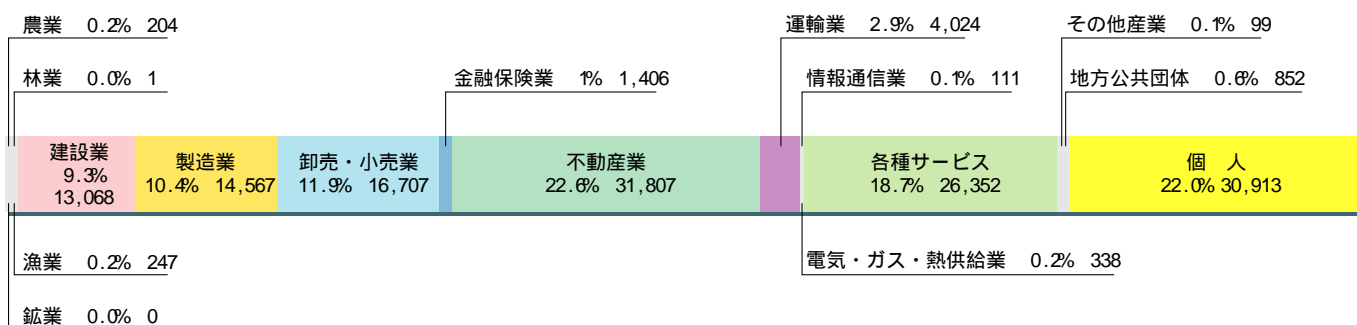


平成 20年 9月末の自己資本額は、前年（平成 19年 9月末）比 2億 38百万円増加し、87億 25百万円となりました。また、自己資本比率（単体）は、0.1ポイント低下し、7.14%となりました。

業種別貸出状況

(平成 20年 9月末)

(単位：百万円)



銀行勘定における金利リスクに関する事項

(平成 20年 9月末)

金利リスク（注1）の管理として、ALMおよび有価証券システムを用いて平成 20年 9月末現在において計測した結果、「99パーセンタイル値（注2）」の銀行勘定の金利リスク量は997百万円となりました。

これは平成 20年 3月末の自己資本 8,614百万円に対して、11.57%であり、「アウトライヤー基準（注3）」である 20%を超えておりません。

	金利リスク	自己資本に対する割合
金利ショックに対する損益・経済価値の増減	997百万円	11.57%

（注1） 金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利に影響を受けるもの（例えば、貸出金、有価証券、預金等）が、金利ショックにより発生するリスク量を見るものです。

（注2） 99パーセンタイル値とは、1年間の金利変動幅データを5年分集め、最も大きな数値から1%目の変化幅を用いてリスク量を計算する方法です。

（注3） パーゼル では、銀行勘定の金利リスクについて、金利リスク量が自己資本の20%を超えるものを「アウトライヤー基準」とし、これに抵触した場合にはリスク量の削減等の対応が必要となる場合があります。